



補足情報

- 小皿を作ったんです、5つぐらいかな。
- 突然、大男が現れました、2メートルぐらいの。
- だから記録持っていないんですよ、われわれ昔の仕事の。
- 接骨医行ってね、「魚の目治らない?」って聞いたんです、うちの近くの。



詳細情報

- 日ましに竜二には忌まわしい陸の日常の匂いがしみついた。家庭的な匂い、隣近所の匂い、平和の匂い、魚を焼く匂い、挨拶の匂い、いつまでもそこにあって微動もしない家具たちの匂い、家計簿の匂い、週末旅行の匂い、・・・陸の人間が多かれ少なかれ身につけているこれらの死臭。
(三島由紀夫『午後の曳航』)



なじみ情報

高見(1995)の例

- やって来ましたよ、例の青年が。
- 山田君はパーティーに来なかった、僕のクラスメートの。



同定可能

- うるさかったんだよ、犬が。
- この例自体は幅広く用いることができる。



新情報提示

- 立って、**つまずいたら**、**缶からに**。(藤井1995)
→「缶からに」は新情報。可能性の高い情報。